

令和 2 年 7 月 2 8 日

## 令和 元年度 特別の教育課程の実施状況等について

熊本 都・道・府・ <b>県</b>		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
荒尾市立中央小学校	荒尾市教育委員会	国・ <b>公</b> ・私

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
荒尾市立中央小学校	<a href="https://es.higo.ed.jp/araoc/wy-siwyg/file/download/1/327">https://es.higo.ed.jp/araoc/wy-siwyg/file/download/1/327</a>	<a href="https://es.higo.ed.jp/araoc/トップページ/kokai">https://es.higo.ed.jp/araoc/トップページ/kokai</a>

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法等を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

- ・ 小学校第 1 学年、第 2 学年において、生活科（20 時間）を削減して、「英語科」を実施
- ・ 小学校第 3 学年、第 4 学年において、総合的な学習の時間（35 時間）を削減して、「英語科」を実施
- ・ 小学校第 5 学年、第 6 学年において、総合的な学習の時間（20 時間）、外国語活動（35 時間）を削減して、「英語科」を実施

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校は、荒尾市の中心部に位置し、市内で一番規模の大きい小学校であり、本市の学校教育の推進役を果たしている。平成 21 年度に文部科学省より「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方などに関する実践研究事業」の指定を受けるとともに、同年文部科学省より「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」の指定も受けて研究を進めてきた。全教科全領域で、電子黒板を活用した教材開発を進めて児童の学習意欲の向上を図ることや表現力の育成に成果を上げてきた。この教育環境を生かし、英語科教育に小学校 6 年間をとおして系統的に取り組むことで、国際化・情報化に対応できる、次代を担う児童の育成を図ることができると考える。

(3) 特例の適用開始日  
平成26年4月1日

(4) 取組の期間  
平成26年4月1日から本校の特別の教育課程が学習指導要領に盛り込まれるまで。

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

なし

### 4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標は「豊かな心を持ち、確かな学力を身につけ、心身ともにたくましい子どもの育成」である。この目標を達成するため、特別の教育課程を生かした教育活動を「自分の気持ちや考えを伝え合うコミュニケーション能力の育成 ～全面実施を見据えた英語科の取組を通して～」の研究主題を設定して取り組んだ。

令和2年度から全面実施となる新学習指導要領で求められる児童の資質や能力を全職員が一丸となって校内研究に取り組むことで育んできた。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

教育基本法前文には、「日本国民は、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願う」、第2条5項には「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくん

できた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」と目標が示してある。さらに学校教育法第21条3項には、教育基本法第2条5項を受けて、目標をより具体化して示してある。

本校は、平成12・13年度玉名荒尾地区教育委員会連絡協議会の「開かれた学校づくり」の研究指定を受け、地域の伝統・文化を生かし、地域と連携した学校づくりに取り組んできた。さらに、平成21年度には文部科学省指定「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方実践研究事業」を受け、全クラスに配備された電子黒板等の恵まれた教育環境を生かしながら研究を進めてきた。英語をはじめとする外国語や外国の文化に触れながら異文化理解、他国を尊重する態度も高めてきた。

これらの取組を生かしながら、平成26年度より地域の伝統・文化を大切に、地域と連携した教育活動と英語活動をととした国際理解教育とを車の両輪として継続指導してきており、学校教育目標の達成に有効であった。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

本校の取組は、令和2年度から教科化された外国語を見据えて、日々着実に積み上げられた貴重な実践である。その取組の中では、特に英語科の学習を児童自らが主体的に行う姿が随所に見られた。今後は、新学習指導要領において英語科で身につけた力を児童が他教科等で十分に発揮できるようカリキュラムマネジメントを行い、資質・能力の向上に努めていくことになる。